

2 富士見町を取り巻く地震環境

東海地震

国では、東海地震が発生した場合に、著しい被害が予想される地域を「地震防災対策強化地域」に指定していますが、富士見町は、この強化地域に該当しています。

駿河トラフから南西に向かってつながる南海トラフに沿った海域では、大規模な地震が100～150年位の間隔で繰り返し発生してきました。ところが、東海地震の震源域では、1854年の安政東海地震以後、約150年間地震が発生していません。このため、「いつ起きてもおかしくない」と言われているのです。国の地震調査研究推進本部では、今後30年以内に東海地震が発生する確率は87%^(注1)としています。

東海地震が発生した場合、全国で建物全壊約260,000棟、死者数約9,200人という甚大な被害が予想されている^(注2)ため、日ごろからの十分な備えが必要です。

注1：2006.1.1を起点とした確率

注2：平成15.3.18 中央防災会議「東海地震対策専門調査会」発表



糸魚川－静岡構造線断層帯（下葛木断層・若宮断層）

活断層とは、第四紀（約200万年前）から現在までの間に繰り返し地震を発生させ、将来も引き続き活動して地震を発生させることが推定される断層のことをいいます。日本には、活断層が約2,000あるとも言われていますが、その中でも、近い将来に地震を発生させる可能性が高いとされているのが、「糸魚川－静岡構造線断層帯」です。

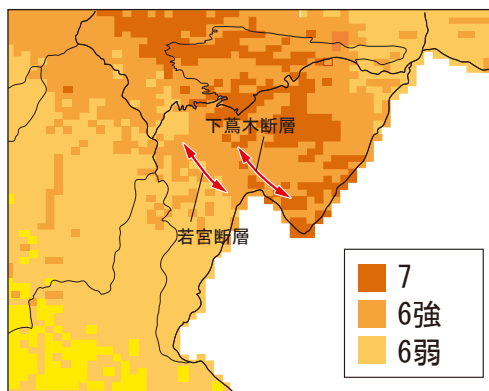
富士見町には、この断層帯の一部である「下葛木断層」と「若宮断層」があります。すなわち、私たちの直下を震源域とする地震が発生する可能性がある、ということです。

長野県が実施した地震被害想定では、糸魚川－静岡構造線断層帯（中部）で地震が発生した場合、富士見町では、次のような被害が出ると予測しています。

被害区分		想定結果
建物被害	全壊棟数	3,794棟
	半壊棟数	3,110棟
火災被害	出火件数	16件
	延焼棟数	126棟
人的被害	死者	74名
	重傷者	69名
	避難者	7,343名

・長野県地震対策基礎調査報告書（平成14年3月）より。
 ・活断層の位置については、『新編日本の活断層－分布図と資料－』（活断層研究会編/東京大学出版会発行）を参考とした。

震度分布図



地震の揺れと被害想定

震度0

人は揺れを感じません。



震度5弱

家具が動いたり、食器や本が落ち、窓ガラスが割れることもあります。



震度1

屋内にいる人で揺れを感じる人もいます。



震度5強

タンスなどの重い家具が倒れたり、自動販売機が倒れることもあります。



震度2

屋内にいる人の多くが揺れを感じます。



震度6弱

立っていることが難しく、壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなります。



震度3

棚の食器が音をたてることがあります。



震度6強

は這わないと動くことができません。重い家具のほとんどが倒れ、戸が外れて飛びます。



震度4

眠っている人のほとんどが目覚めます。歩行中の人も揺れを感じます。



震度7

自分の意思で行動できなくなります。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生します。



次の大地震が発生したときに、一人の犠牲者も出さないために…